

みんなの

「声」 No. 25

町民の皆さまからの町への提言、思いなどを紹介します。

表紙(1頁)に登場いただいた田村さん家族にお話を聞きました。



左から
美智子さん、日真莉ちゃん(9歳・小学4年生) 律子さん

子育てしやすい環境を

——町の良いところは

海と山があって自然が豊かで食べ物が美味しいところ、お祭りが賑わっているところ。

——町に望むことは

このままの自然豊かなままであって欲しい。

——子どもに望むことは

のびのび元気に育って欲しい。

傍聴席から
ひとこと

No. 67

将来の漁業の担い手確保に期待



うえばやし みのる
上林 實さん

今日は知りあいの漁師さんから「今日の議会の一般質問でホタテの『へい死』について出るらしいよ。」と聞いて傍聴に来ました。

よく山田町の人口はピーク時の半分まで落ち込んだと言われますが、漁業者はピーク時の10分の1以下まで落ち込んでいます。高齢化も山田町全体の比ではありません。

私が若いころは作業小屋に皆朝から晩まで詰めて作業していました。作業小屋の一部に休憩談話スペースを設けているのですが、最近そこで皆と話をした記憶がありません。ライフスタイルが変わったからという方もいらっしゃると思いますが、私はそれに加えて我々のほとんどが高齢になり若いころと比べて気力、体力ともに衰えてしまったからではないかと思っております。

冒頭のホタテのへい死は海水温の上昇が原因ですが、海水温は深くなればなるほど冷たくなる傾向にあるので、海水温の高い時には、ホタテを繋いでいるロープを少し下へ伸ばせばある程度防ぐ事が出来るのではないかとされています。しかし先ほどのとおり我々漁業者のほとんどが高齢となり心身ともにキツく、そのひと手間をかけるのが「ゆるぐなぐなった」のです。

今後も今回の「へい死」といったいわば事故に対する対策と合わせ、漁業者とりわけ将来の担い手となる若い漁業者の確保のための百計を町に粘り強く提案し続けて下さいますようお願いいたします。

あ
と
が
き

▼令和六年一月一日に発生した能登半島地震により尊い命を亡くされた方のご冥福をお祈りし、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。今回、この災害廃棄物の受入れについて提言し、町長も宮古地区広域行政組合の構成員として前向きに対応するとのことです。東日本大震災で発生した本町の膨大な量のガレキは、放射性セシウムの問題がある中、受入れを英断頂いた自治体のご支援により3年で処理が完了し復興へと進むことができましたものです。私たちにどのような支援ができるのか、これからも提言してまいります。(中屋佳信)

発行責任者	議長 長 昆 暉 雄
議会広報編集特別委員会	委員長 横 田 龍 寿
副委員長	中山 崎 屋 佳 信
委員	山崎 忠 弘
副委員	山崎 佳 信
委員	山崎 佳 信
委員	山崎 佳 信

やまだ議会だより No.183 令和6年5月1日発行 発行/岩手県山田町議会 編集/議会広報編集特別委員会 印刷/岩手県山田町印刷局